

2007年度 日本液晶学会第4回理事会議事録

日時:平成19年11月17日(土)13:00~17:00

場所:(株)アドスリー3階 会議室

出席者:赤羽正志、近藤克己、氏家誠司、守屋慶一、坂本謙二、多辺由佳、能勢敏明、石川 謙、森武 洋、宇戸禎仁、西川通則、渡辺良一、青木良夫、鈴木成嘉、新事務局(福田・諸星2名)、

欠席者:内田龍男、香田智則、米田 慎、竹内安正、森 章、

議事

赤羽会長の開会挨拶に続き、新事務局のスタッフの紹介があり、氏家総務理事より各委員会報告の進行を進めるよう発言があった。

1. 会員委員会(渡辺良一理事)

①入退会者の報告・承認(会員委員会報告参照)

07年7月~07年11月13日現在の正会員・学生会員、入退会者は、入会46名、退会10名、+36名増加で総会員数1,292名と報告された。

②会員関係

2006~2008年会費徴収スケジュール(案)の件

(別途)に会費徴収スケジュールを添付するのでご参照されたい。

2006年~2008年会費徴収計画案(別表2)の通り計画にもとづいて過去の会費請求、今年の会費の請求、来年の会費の請求について今年の12月に行く。それ以降未納者に対する請求は7月、10月にメールにて行う予定である。今まで会費の請求について不明確な点があったが、今後の会費の徴収の計画及び、来年度から会員に対する方針について、ご審議いただきたい。

また、新事務局のアドスリーより、年度別の会費納入状況を明確にするため、請求書の封筒に年度別会費納入状況を印刷して、会員宛に送付する案を提案があり、これを実施したい。

会費徴収スケジュールと上記対応について、ご審議お願いしたい。

・会費請求は10月にすでに送付されているのか。

・12月に送る予定である。

・未納者への会費請求についても別紙をご参照下さい。

・(氏家総務理事)今の内容に関して何かご質問ある方は、お願いいたします。

・会費の徴収についてこここのところいろいろ問題があったと思いますが、先程ご説明いただいたように会費の請求書の中に、いっとうゆう風に収めているか、収めていないか解るような書類を添付する形になるので、自分がいつ納めたかが確認できるようになる。

・会費の請求を今まで4回ぐらい郵送して再請求と言う形をとっているのを、再請求は1回で数を減らし1回にして、後はメールで催促し、請求の送料もバカにならないので、取合えず1回実施してみてその結果見てみたい。

—承認—

③2007年度住所不明者リストを(別表3)に示す。

別表に示す通り2007年の住所不明者がおり、連絡が取れない。会誌誌を送っても届かないし、またメールを送っても届かない状況である。理事の方々でお知り合いの方がおられる方は、ご連絡をお願いします。また今後、新事務局に再度メールにて連絡をお願いする。それでも連絡がない方は退会扱いとしたい。

・学生会員は卒業して住所が変更になったり、一般の場合は、所属先が変更になったりしており連絡が取れない状況である。

・学生会員の場合は何らかの方法で連絡をとるなどして、記録に残す方法でよいか。すぐには効果が無いが、学生会員は研究室まで入会の際に明記するようにする等して身分の確認をする。

・一般会員でも部署が変わったりした場合は連絡が取れない場合があるのではないかと。

・住所不明者は会費を全員が払っていないのか。

全員が払っていないのではなく、所属が変わって不明の方もいる。・支払っている人も存在する。

・不明者には、電話はあるいは、Webなどで氏名を確認できないか。

メールやWebで連絡をしても本人は気付かないのではないかと。しかし気付いてくれる人も全員ではないがいるのではないかと。

Webでの氏名明記などは個人情報などの関係があり難しい状況にある。また電話等についても費用の問題があり、本来住所変更は、会員から申請するのが義務である。

・住所不明者に対し、メールとWebでのアナウンスでということで行う事にしたい。

—承認—

③FPDインターナショナル関係

2007年10月24日(水)~26日(金)、パシフィコ横浜で開催。昨年、一昨年は会場外のブースであったが、日経BP社好意で会場内に設置。PAC→アドスリーへの事務局変更に伴い設置状況並びに手続きに関し現地で打合せを行った。これに合せ、次期会員委員の西山氏にも業務の引継ぎを実施した。

2、行事委員会(能勢敏明理事)

①2007年サマースクールの別紙報告書に基づき、会計及びアンケートの結果報告を行う。

収入 3,395,000(有料参加者 68名)

支出 3,165,702

収益 ¥ 229,298

・参加者はスタッフを含め82名であった。企業から初めて参加する若い方がほとんどであった。

(氏家総務理事)それでは今の内容に関して何かご質問ある方は、お願いいたします。

・内容が難しかった。・場所の熱海の会場は良い。資料の事前配布をして欲しい。

・運営する担当者の負担が多いので、作業のうち会計の管理を別のところで出来ないか。

・毎年出足が遅く、会社関係に参加者の協力をおねがいして参加者を集める方法をとっている。

・会社関係参加者はなるべく早く告知しないと許可がおりないので早く知らせる必要がある。

・実行委員を引き受けてくれる人がだんだん難しくなるであろう。会費の管理を別のところで出来ないか。アドスリーに委託できないか。

・実行委員の問題は、最初はボランティア的にやられていたが、担当する方が、なるべく負担が一人の方に、かからない様に方法を検討しなければならぬ。討論会で運営委員会を作ることになっており他の行事報告の後に再度検討したい。

— 継続審議 —

②(行事担当石川謙理事)

・2008年液晶学会サマースクール現状と方向性について(別紙サマースクール資料参照)参考のために資料の最後に、ここ何年かのサマースクールの講義の内容とたぶん伝承として伝っているサマースクールの自主方針とシナバスをつけてある。

・サマースクールの参加者は基本的に液晶の初学者であり、毎年異なる人が受講している。

現在のように年ごとに講義内容が大きく異なるよりも、基本となる講義内容は毎年同じでも問題はない。毎年同じ内容を講義することにより、受講者の反応を活かした講義内容の改訂は可能であり、このような活動を続けていけば初学者の為の液晶入門テキストなどにつながっていく事が期待される。

また主催者の選任は、一本釣りに近い形態で選ばれており、事務作業のほとんどは主催者に任せられ事務部門の負担が多く、事務作業を切り離し主催者の負担を軽減しながら、連続性を持たせる方向を模索すべき段階に来ている。

・講義内容は、液晶全般にわたっているが、逆に系統性に欠け受講者の多くが企業からの参加者であることから、企業参加者のニーズに合うよう検討する必要がある。

・最近の参加者はほとんど会社の人で、リピータがいなくて最初の会の人だけである。

・その需要に対して現在のプログラム内容が対応できているのかがひとつ問題のひとつである。

・実際に会社の方は、液晶分野は非常に大きいディスプレイにかかわる方が中心であり、なお会社に入りたてというところはディスプレイをわりと意識してその中で液晶学会が出来ることとして別紙資料にプログラム試案を提案してみた。

・講師として企業から積極的に加わっていただくことを考えてはどうか。

企業の方に事務的な作業を押し付けるわけに行かないので会費徴収のところで新事務局の協力は得られないか。

(氏家総務理事)ご意見のある方はお願いします。

・(近藤副会長)この主旨は非常に良くわかる。ジェイタというところで会社ぐるみで産業界として本格的にスクールをはじめている。

・企業側として豊富な資金を財団法人で人材を投入して大規模に動き出して半ば業務として動いているが、講師の数が足りないのが現状であり、これを液晶学会として、学会のポジションを高めるようしながら企業との関連付けを考えてみたい。

・対案として有能な企業のベテラン人たちがリタイアの次期に来ており、旅費と講師料を支払い、お願いしてはどうか。

(氏家総務理事)

・学会としてサマースクールをどう位置付けにしていくのがいいのか、企業参加者が多いから企業に併せるようなカリキュラムが良いのか、最初の内は学生が非常に多く、学生のほり起こしを考えるのか、その辺を含めてトータル的に来年早めに意見交換をして結論を出すのが必用で、担当される方で結論を出して欲しい。また、会費集金については前に学会事務センターがやっていたので、アドスリーで対応をお願いしてはどうか。振込みを検討してはどうか。

・現状、参加費の支払いが遅く間に合わない場合もあり、後日、支払いする場合もある。

・場所について検討する必要もあり、熱海が適当かどうか検討する必要もある。

・企業が行うセミナーと競ってもしようがないので、液晶学会のセミナーとしての色の違いをどのように出しながら時の流れにあわせるかが大切である。

・サマースクールをどうゆう風にしたかったのか、単に良い講義をするということだけなら別に熱海でやらなくとも良いので、熱海でやるところのメリットと価値について考える必要がある。

・前にサマースクールに参加して講義以外のところで若い人たちが集まって議論が盛り上がり、あれは熱気があって、こう言うものかと驚いた。他の行事では見られない体験が出来た。そこでのネットワークが後で役に立つ。泊りがけでやるメリット多々あり、企業がやる行事と学会の行事の違いを、サマースクールで出したい。

・宇戸先生に早めに具体的なワーキンググループを作って時の流れに合うよう議論していただき、来年のかたちを提言して欲しい。人選は宇戸先生を中心に人選を考えてはどうか。

・いろいろな問題についてワーキンググループを作って議論してはどうか。討論会も事もあるので後でまとめて議論したい。

(氏家総務理事) それでは講演会・討論会の報告をお願いします。

3. (行事担当石川 謙 理事) 2007年日本液晶学会報告(別紙参照)

① 講演会・討論会の参加者報告及び会計報告について

講演会・討論会を9月12日～14日にかけて東京工業大学大岡山キャンパスにて開催しました。

・参加者は 講演会 140名 ・討論会 466名であった。

昨年に比べ講演会・討論会の参加者は増加している。今年は事前受付が受付期間を延長したため 昨年に比べ 100名程多かった。

② 虹彩賞の受賞者および講演題目について

・虹彩賞に関しては、本年より審査の主体を現地実行委員から虹彩賞審査委員会に移管した。

・本年度の受賞者と講演題目を次に示す。

- 井上英己: 微笑な膜厚不均一性がダイレクトタ分布に与える影響
- 岩田洋典: 過渡電流解析による負の誘電率異方性を持つネマティック液晶の粘性係数の測定
- 伊是名省吾: 高分子安定化ブルー相内の高分子凝集構造の解析
- 吉田広之: 機能性フォトニック欠陥をもつコレステリック液晶の欠陥モードチューニング
- 齋藤真器名: 動的光散乱法によるフッ素鎖液晶を用いた透明ネマティック相の研究
- 倉本昌幸: 液晶性オリゴペプチドの自己組織構造に対する主鎖骨格の効果
- 東條健太: 光学活性な4, 4'-トリフルオロ-3-(6-メキシロ-2-ナフチル)ブタン酸の合成とそのらせん誘起材料への応用

③ 会計報告

講演会・討論会

収入 ¥5,655,352

支出 ¥4,075,108

¥1,580,108 の黒字

④ 来年度の実行委員会体制について

今年度はそれぞれ役割分担を決め(現地、行事、研究、理事会)それぞれの担当理事が協力して現地の負担を軽減する方法で行った。できれば来年もこの方法を活用したい。また現地での集金方法が負担になることもあり、以前、学会事務センターに依頼したように新事務局のアドスリーに委託することも検討したい。

虹彩賞に関しては来年もまた氏家先生にお願いしたい。

⑤ 来年度に向けての検討事項を審議いただきたい。

来年度の参加登録参加費について

・ここ2年会計黒字があり、以前参加登録を学会事務センターに委託していた事務作業部分が黒字になっているので、1人当たり1,000円程度の参加登録費の値下げを提案する。

(氏家総務理事)

現状では昔、学会事務センターに委託していた業務部分の会計費用の部分が委託されていた部分が今やっていな訳でもしそれが委託されるようになると、多分それが必要となり、それと多少黒字となって残金があったとして、いま大学の会場を使っているが大学を使わず、やろうとなった時にどこかの会場を借りるとなると経費的には負担がある。その事を考えると会員へのサービスを恒常的に常に行うという意味では、多少黒字が残ってもどこかで消費されてしまう。また、一旦値下げすると上げるのが現状では大変である。

・これについて、全部還元してしまうのではなく他の部分の赤字を埋めるものとして考えたほうが良いのではないかと。科学会の参加登録費と比べて ¥3,000でもかなり安い方ではないか。

・昔と事情が違って費用が増えており、ひとつひとつ単独で赤字を出さないようにしていかなくては、ならなくなり各委員会やその他で全てそれぞれ赤字にならない様に決算をしていかない様に迫られ、学会としてトータルで考えた方が良い。

(石川 謙理事)

・理事会とか会報については、予算額は全ての会員にイーブンなわけで討論会は、討論会は参加者、非会員を含めてですから、赤字にしろといっているわけではなくて、少なくとも現状、黒字額が多すぎるし、大学でやる限りは、特段の事情がない限り多分下げ代はある。

・これについては、実際には新事務局に会計をお願いするかということと、その費用がいくらかかるかという事もあるので現状では来年もこのままやれば、来年度も黒字がある。皆さんはご不満はないのではないかと。少なくとも下げ代はある。

・2年間だけの黒字で判断するべきではなく、学会自体の来年度の予算がでていないこともあり、早急に結論を出すべきではない。

・討論会の参加者を見ると会員が非常に多く、学会誌にも編集費として還元されており会員のためにサービス役立っていると思うので参加登録費を下げるべきではない。

・参加登録参加費については、いづれにしても慎重に検討すると言うことでよいか。

⑥ 登壇条件の見直し

学会により協賛条件として、他の学会に協賛をお願いするには、当該会員の参加登録費を主催者学会と同額にする事が求められており、この条件を今年度に適用すると最大60万円程度の減収となり赤字にはならない

が液晶学会会員であるメリットが大幅に減少し、学会誌の送付だけがメリットになりかねない。
登壇資格を改めるかどうか審議されたい。この問題に対応する為に登壇資格を以下のように改める事を提案する。
「液晶学会討論会の登壇者は原則として日本液晶学会会員のみとする。但し、液晶学会会員で、ないものが、所属学会に係らず非会員向けの参加登録費を支払った場合には登壇資格を得たものとする。」

- ・登壇条件について、ご提案を載いておりますがこれについて皆様のご意見を伺いたい。
- 協賛会員で参加だけなら参加できるが、非会員は余分に支払わなければ、発表できないのか。
- ・多くの場合、その学会員でなければ発表できない。
- ・ただ非会員であっても、会員の費用を支払えば発表できるよう窓口を広くしておきたい。
- ・この件に関しては、学会誌等の都合もあり年内に結論を出して欲しい。
- ・もし反対のご意見が無ければこの条件で年内に他の学会状況を調べて結論を出すようにしたい。

—継続審議—

⑦社会人学生会員の扱いについて

現在の学会規則では、学生会員の資格を「大学又はこれに準じる学校に在籍する学生であって」と定義している。このためいわゆる社会人大学院生の中には学生会員で登録する例がある。

- ・しかし、社会人大学院生を学生会員にするのは、学生会員の趣旨から外れており、学生会員に関しては、「大学又はこれに準じる学校のみに在籍する学生であって」と定義し直すことを提案する。
- ・どこが違うか前段と後段の違いがわからない。
- ・本人の収入があるかないかの違いですね。のみの文字が入るか入れないかの違いである。
- ・二重の所属は認めない。
- ・社会人である場合は、学生証を持っていても学生とは認めないということで良いか。
- ・少し厳しいですが、問題が無いのでこの提案を、のみを入れることで承認としたい。

—承認—

⑧名誉会員・受賞者の対応

学会細則により、名誉会員からは参加費を徴収しないことになっているが、無料の範囲が明文化されていない。

今年度は、総務理事と昨年の現地委員と連絡をとって、参加登録費は無料、懇親会費戴くことで合意した。しかし、実際に討論会に参加される方がさらに少ないので、すべて(参加登録費・懇親会費・予稿集)とも無料にしても問題はない。来年度以降の内規として名誉会員については討論会に係る全てを無料にすることを提案する。

- ・名誉会員について参加費及び懇親会費を、無料とする事に関しご意見をお願いします。
- ・名誉会員は実際には多くない。現在全部で5人程度です。
- ・登録費と懇親会費は無料とすることで当面は、対処することにします。

—承認—

- ・受賞者の虹彩賞に関しては懇親会無料という内規があるが、それ以外あまり定まっていないようで内規として定める必要がある。

尚、各賞の受賞者について、虹彩賞に関しては懇親会無料という内規があるが、それ以外あまり内規が無いいため内規として定める必要がある。

虹彩賞は学生が多いということで、お金がないということで無料にしているが、無料にするという決りがないので、それ以外に関しては、変更はしない。

⑨その他

学会の参加登録について、一部の学生の間には、発表することに対する課金であるという、誤った認識がある。

今年度は、2件の発表をするという理由で、参加費を二重に支払った学生がでた一方で、講演を聴きに来たという理由で参加登録をしなかった学生さんが見られた。

—継続審議—

4. 研究会(青木良夫理事)

①2007年度研究フォーラム活動報告(別紙参照)

今年度、主査会議をいままで2回開き、来週末に3回目実施し、これから年内1回開催予定である。

活動のまとめとして、講演会実施回数はこれまで7回、これからあと2回開催され合計9回開催の予定である。

講演会参加者数と収支が次のように報告された。

参加者数: 226名

一般会員: 151(非会員: 29)

学生会員: 41(学生非会員: 5)

収支: ¥122, 143

収入: ¥742, 037

支出: ¥619, 894

そのほかの活動として、本年度の学会誌記念号のトピックス及び執筆者の原案を編集委員会と検討及び液晶学会講演会の企画を担当した。

今年度の活動において、黒字が昨年度より小さく見えるが、今年度は、可能な限り委員方々の必需経費を出来るだけ計上した。

2007年度は、必用な経費を(旅費等)を可能な範囲で計上した為、黒字額は小さくなっている。また、講演会の懇親会は別会計となっている。また講師の参加費などの取扱いなども経費の中に加えることの是非についても検討が必要である。各フォーラムの活動において人材の不足が顕著であり、今後、新人の発掘に加え、OBのご協力をお願いしたい。また各フォーラムの各分野活動について検討を行っている。

一方、今年度より液晶学会講演会の企画を研究フォーラムが担当することとなった。討論会の現地実行委員の負担軽減のためにも、今後の協力体制をさらに見直していく必要がある。講演会も規模を大きくしてやるというのではなく、小規模でも密度を濃くしてやる場を持つという傾向もある。現地実行委員会の負担軽減の為にも、今後の協力体制をさらに見直す必要がある。各フォーラムの活動において人材の不足が顕著であり、今後、新人の発掘に加えてOBの協力が必要である。また各分野分担などの視点から、フォーラムの活動についての検討を行っている。今6個のフォーラムがあるが内容的に重複している場合もあり少し整理統合したらどうかとの意見もある。

また、各フォーラムの収支は、別紙に収支状況を提示してあるのでご参照されたい。

(氏家総務理事)それではただいまの件につき、ご意見があればお願いします。

この問題について学会の規模の割合に比べ、講演会の数が多いという意見もあり、検討しなければならない問題で、理事会としても検討したい。

内容がリッピングしているところが多く、似たようなところはくっつけてはどうかという意見もあるが、それぞれに意味があると言う強い意見もある。今年は合同でやっているところもある。

・しかし、この問題は理事会で上のほうから決めるのではなく、委員会としても検討して欲しい。

ここで急に結論がでるのではないが、理事会としてもある程度関与して研究会としても検討する。

あとで総務のところでも再度ご意見を賜りたい。

・フォーラムのあり方については継続して考えていくことで、ただいまのままではやりづらいことは間違いないので十分な検討が必要である。

—継続審議—

5. 編集委員会報告(多辺由佳理事)

報告事項

①会誌10月号が10月25日に発行され、中味は90ページです。

郵送付表紙の事務局がプロアクテブのまま郵送され、送付業者への連絡が不徹底の為、次回から改善されるよう手配する。

②10周年記念誌「液晶科学実験入門」が2ヶ月遅れましたが無事に発行された。ご協力を頂き有難うございました。初版1,000部発行。予約販売(2割引)200冊ほどあり発送済みです。店頭販売は順次予定されている。

日刊工業新聞に広告掲載、月刊誌に書評掲載予定されている。

反省点としては、問題であろういわれていた通り専門用語の統一が、なかなか難しくて実態にそぐわないものもあり、何かガイドラインの作成が望ましい。

審議事項

①会誌編集の業務を、壮光舎印刷から今回新事務局移行に伴い、アドスリーに移行したいということを検討しなければならない。移行した場合のメリット、デメリットとしては、移行した場合に100万円程度出版費が削減できるかも知れない。今、壮光舎印刷は、もともと印刷業務をやるところなので編集業務は実は外注して臨時に人を雇ってやってもらっている。それをアドスリーに委託すれば負担が減るメリットがある。一時的には移行引き継ぎに伴う編集委員の負担が増えるかもしれないメリット、デメリットがある。

・年4回会誌が出版しているが、これを年6回に変更してはどうか言うことを、あわせて検討をした。もちろんメリットは情報提供サイクルを短縮してサービスの向上を図る。デメリットとしては、編集費の増加、編集委員の負担が増加するという事がある。これらの問題を編集委員で検討した。

・会誌だけは切り離した方が良いという意見もあった。

アドスリーの方では、編集をやっていただき、印刷は別の業者でかまわないのか。

・アドスリーとしては、印刷会社は別でも結構です。

・それならば移行引継ぎの手間も大変ではないので良い感触を持っている。

(氏家総務理事)いまの報告、審議事項についてご意見をお願いします。

・氏家総務理事のほうから米谷委員長をお願いいたしましたが、会誌の編集と印刷を含めたときに、アドスリーに現状の見積もりをしたところ、今までより、編集、印刷を含め100万円程度安くなる。但し、実際に細かいところを、こちらが要求すれば条件が変わってくると思う。

現状で今、編集は一時的にリタイヤされた方に依頼している方がなれてきたので、編集委員の負担が少ないと思われるが、一時的なものなので、将来どうなるかとの不安もある。対応についての編集の部分と事務的な部分の窓口の一本化という点でアドスリーに任せられた方が、メリットがある。将来的に編集、印刷を含めてアドスリーに一本化することも移行前提に検討材料としたい。

(氏家総務理事)もう一つは、年間発行部数を4回から6回に増加させるということは、今の記事の量、および内容を変えずに変更してはどうかと言う提案です。情報提供のサイクルの短縮によって会員サービスの向上とか、日頃アナウンスするにしても年に4回だけだと出版次期の関係もあって会誌でのアナウンスは効果がないという現状がありますから、年に4回だけだと、たまにやってくるイメージもあるので2ヶ月に1回であれば会員の意識も少しは違うのではないかと。

ただその時に編集費や編集委員の負担がどうなるか費用と負担の部分がどうなるか検討しなければならないが、この問

題に関してここで検討を始めていいだろうかという提案で、今すぐ決めるということではなく、検討課題としたい。

・今後6回に増やした場合の、費用については見積もりを取る必要もあり、また編集委員の負担の部分も検討する必要はある。そこまでして6回やる必要があるか。まずは編集の意向がどうかと言う事がメインです。

・サイクルを短縮すると、会員サービスが良くなるということはどういうことか。

今メールで出している情報とかいろいろアナウンス内容を会誌に載せやすく、年に4回ではなく6回にした方が細かくタイムリーに情報を提供でき、会員に学会の意識も高まるという期待です。

・会誌が届かないということで、会費未納も気が付くのではないか。

・たとえば討論会のプログラムも会誌には載せていない。そういった情報を会誌に載せたい。

・編集費と印刷費の負担増加など費用対効果を検討する必要がある。記事の情報もだんだん集まりにくくなっている。

・もちろん効果がないということであれば検討しなくても良いので、これに関しては今どうしても結論を出さなくても良いので検討事項にしたい。

—継続審議—

6、情報委員会報告(森武 洋理事)

①学会ロゴのWEB投票について、投票の結果、ロゴ3を学会ロゴに決定した事が、液晶討論会懇親会の場で発表された。

②学会ホームページについて

液晶討論会において学会ロゴが制定され、ホームページのタイトルページのロゴを更新した。学会事務局移転に関するホームページの更新を行った。

③ ニュースレターの公開について、編集委員会により記事の執筆依頼を行っているニュースレターについて7月以降、8月に2件、10月に1件の学会報告等を掲載した。

④JLCS-Newsについて事務局移転に伴い、ニュースの配信を11月から新事務局からの発信に切り替えた。

⑤JLCS-Newsについて

事務局移転に伴い、JLCS-Newsの配信時に従来、会員番号と氏名が掲載されていたが、現在表示されていないため、表示してもらう方向で新事務局と調整したい。

討論会に、会員番号があると便利と言う意見が多いので新事務局と検討したい。

⑥会員名簿の更新について

現在ホームページ上に公開している会員名簿について、今後、新事務局とデータの更新について調整を行い、定期的に更新していきたい。

⑦各メーリングリストのメンバー更新について

理事会、各委員会、フォーラム等のメーリングリストの中で、情報委員会が管理しているものについて登録メンバーを年明けに更新していきたいので協力をお願いしたい。

(氏家総務理事)ただいまの情報委員会報告について何かご意見はございますか。

・最後のメーリングリストのメンバー更新について、12月いっぱいとか期限があるのか。

・年によっていろいろあり、新しいメンバーが決まってから順次行っていくしかない。いずれにしても決まり次第順々に対処したい。

7、財務委員会報告(坂本謙二理事)

①定期業務の流れについて

事務局変更に伴って、多少混乱が起きるかもしれないと思います。

会費月次清算報告、支出承認、四半期の決算、2007年度一般会計・特別会計決算、2009年度予算作成、2008年度一般会計収支決算書(中間)等の財務の説明と事務局との分担を説明します。

②今までのお金の流れを今後どうするか、決めていないので必要な作業を書いています。

(会費のコンビニ振込み→郵便振込みに変更したことによる新事務局と、今までのPACシステムとの違いから起きる会費管理の問題と処理方法)の検討をする必要がある。

③年度末・年度始めにおける主催行事決算・送金など。

今年度末・年度始めにおける主催行事決算・送金についてお金の出し入れの黒字分を戻す場合は12月15日をめどに戻してください。フォーラムは最後のフォーラムが11月30日だった。

忙しいですが、12月20日までに処理していただきたい。フォーラム決算を年内に終了したいのでご協力をお願いします。

・年明けの処理として、必用準備金、討論会・サマースクールの準備金を請求があれば100万・50万を前もって振り込むので1月中旬に支払いたい。

・各フォーラムの準備金も関しても準備金の上限を20万として支払う作業を1月中旬に支払いたい。

④懸案事項として、財務担当の預金口座移動について12月中旬に移動したい。

預金口座の取扱い各口座名義の問題がありはっきりしておきたい事項です。

お金の流れをPAC→アドスリーに変わりますのでこの問題をはっきりしなければならぬので懸案事項がある。これは後で協議します。

④2008年度特別事項

1. 強誘電性液晶国際会議の決算、準備金100万円の返還があり、12月中旬に処理できる。

2. 2008年度の予算は、作成時点では、別の事務委託会社の見積書をベースに作成されていることに注意されたい。

3. 収支決算書がここにあるが、11月5日締めになっておりPACが管理作成したもので、アドスリーに移行するまでのPACの収支決算書である。(別紙参照)

4. 編集費として現状第3号までの編集費が入っているが次の号を入れますと大体、印刷費、発行費として150万円、原稿料20万円が出されトータル800万円になります。
5. 10周年記念として座談会等、開きましたので多少は赤字になるのはしょうがない。予算額との差が+100万程度の差が出る。
6. 後、10周年記念特別記念事業として、学会誌のバックナンバーの電子パネル化としてお金を使っているが、但し、最初の2年間でまだ電子パネル化出来ていないため、その分で金額が下がっている。
7. 当初60万円の赤字予算を組んでいたが、編集費が-100万円ぐらいですので先程液晶討論会のところで+150万増えたこともあり、何とか赤字にならない。

審議していただきたいのは、

①お金の流れ、今年10月までのお金の流れは、学会員の会費は、今までまず通常コンビニ振込みで、ロックアカウント口座に全部振り込まれ、会費の月次生産報告表を作成し、手数料等を差し引き、財務の開設の口座に2ヶ月後に送金してもらう事になっており、その金額を財務が管理し実際には、学会の支出を行うのはPACが管理している赤坂のみずほ銀行の口座で出し入れするのですが、その口座のお金が底をついた時に、財務が管理している銀行口座から送金するシステムになっていた。

・また銀行振り込みの会費もみずほ銀行の口座に直接振り込まれていた。雑収入も赤坂のみずほ銀行に振り込まれていた。会費だけが、財務口座を経由して執拗な時だけ支払うようになっていた。

これは学会事務センターの破綻からこのシステムが導入され、収入の大半を占める会費収入を、財務が口座を管理するという流れで、こういうシステムが出来、2005年の1月理事会の資料から、抜粋した。

・最後に、仮に使い込みが発生した時に、財務担当理事の責任が問われることになるのでご注意ください。みずほ銀行口座にあまり資金を多く集中しない様にご注意ください。

今回、新事務局に移行後、会費の集め方が変わり、ロックアウト口座が無くなり、その代わりに学会名の郵便振込み口座に変更になる。これは事情があり、日本液晶学会講演会名義を取合えず仮使用することになり、この口座に会費が集まるところまで決まっています。銀行振り込み口座については、従来通りみずほ銀行口座に振り込みとなっている。

② 財務管理の口座が必用かどうかを議論していただきたい。郵便から実際に支払いを行う口座へ直接受け渡しているの___であれば、財務管理口座は必用なくなるので、これを普通にした方がいいかどうか。学会事務センターから移行する際に、資金の流れについて理事会の承認を得ているので変更する場合今回も財務管理体制の変更について、理事会の承認を得る必要がある。

・郵便口座の管理を財務担当が管理した方がいいかどうかを議論されたい。

・大半お金を財務が管理し、郵便口座に振り込まれた会費も財務口座に振り込むようにするかどうか。

・郵便口座のお金も順次財務の口座に移していただくかどうか。

(氏家総務理事)

・今までのことを整理すると、会費を含めて学会の資金の管理をどうするか、財務担当が大半を所持し必要に応じて必用金額を事務局管理のみずほ銀行口座に振りかえる方法を取るのかどうか。

・現在のPAC財務管理体制 → アドスリー移行後の財務管理体制の構築については、別表を参照されたい。

・資金の移動について財務担当は、資金の移動の承認だけになる。

・今、ご説明いただいたように、一番重要なのは、理事会全体で財務管理体制をどうするか、学会財務担当理事が管理していた口座を今後も以前のように使うのか使わないのか。

言い換えると、学会の郵便口座から→財務担当理事の口座を経由しないで、アドスリーが管理する学会名義の口座のみずほ銀行口座に入れるのかということになる。財務が管理すると郵便口座には常に資金がプールされていることになる。事務作業的作業から考えると財務口座を通さないほうが作業的にらくである。

従前通りの方法でよいのではないか。

・財務担当理事の負担がどのくらいになるのか。

各財務担当経験者の理事は、巨額の資金を管理するのは負担が多く感じるが、作業的にはそれほど負担はならない。今、定期預金はどこが管理されているのか。3,000万ほどある巨額の定期預金の通帳は、アドスリーが預っているが、印鑑は学会の管理で事実上学会の管理となっている。

みずほ銀行の通帳管理は、アドスリーが通帳と印鑑を管理し、財務担当の承認を得て、口座から現金を支払っている。

・今まで通りの管理(郵便預金口座→学会財務口座へ順次振り込み)にして、今まで通り新任の香田財務担当理事に管理をしていただくことでよいか。

・郵便振込みの支払い通知はどうなっているのか。振込み資料はアドスリーで整理し報告をしてもらい振込み資料は5年間保存し、いつでも開示の状態に出来る。

・郵便振込みについて、アドスリーから学会口座に振込むときのチェックをしないと、問題があったときにトラブルの原因にならないか。経理資料(振込み表)は5年間保存しいつでも開示できるようにしている。

・郵便振替口座からどっぷりになり、銀行口座に振り込む場合は透明性において問題は起きないか。

(坂本財務理事)それは今までのPACの場合も、PACより資料の提供と処理済の金額を振込みされており、同じ条件で、やっていたので変わらない。

液晶学会講演会の名義をなぜ使うのか。今回事務局移転に伴い時間的に間に合わない為、この名義を使用することになった。口座名義は、今回事務局の方で打刻して間違いのないように郵送する場合は、郵便局として問題はないとの回答を

得た。

・講演会の名義は来年の講演会の時に同じ名義を使うのか。

・口座の名義の問題がいろいろあり、法律的に以前の会長のままになっており、名義変更が大変なので銀行・郵便局などに確認したところ、会長あるいは財務担当でお金を扱う理由の説明が付けばよいということなので、いずれは日本液晶学会名義ですることになるが、その場合、総会資料規約や理事名などの提出が必要となる。

当面は財務理事にお願いすることになります。代理でもれなくは無いがその場合は、身分証名の提示が必要である。

・先程のフォーラム決算ですが、返金の口座番号や名義人は従来と変わらないか。

・赤坂みずほ銀行で従来と変わりはない。当分変更はないのか。

・決算報告書は財務とアドスリー事務局へメールで送付、領収書はアドスリーへ送付でよいか。そのようにお願いします。

・討論会の領収書もアドスリーに送るのか。送付をお願いします。

旅費の請求なども従来と変わらないか。従来通り変更はない。

従来と同じ旅費のホームマットをアドスリーの方から送付する。了解しました。

住所変更は総会で承認されたのか。総会の承認を得ている。

理事会・総会の議事録が今年は掲載されていないので、掲載をして欲しい。了解しました。

サマースクールを来年行いますがサマースクール関係の費用を財務から受けるのは準備金だけか、後は参加費収入で賄うのか。また終了後、準備金と黒字分を収支報告書と領収書を共に返却すればよいのか。そのようにお願いします。

8、総務委員会(氏家総務理事)

①郵便振替口座、銀行口座の開設について

口座名義変更等をする必要があるのでは、それについては、具体的にどういう手順でやるか、財務担当との引継ぎもあり、あわせてやらせていただきたい。

② 口座名義については、学会予算についても単に代表者で、会長名義か、財務担当かという事で、今は会長の名義でおこなっているが、会長がわざわざ来てやっていただくのでは大変なので、実質的な財務担当にお願いすることでよいか。

③会費の徴収に関しては、郵便振込みを原則となるが、企業等については銀行振り込みになると思いますので、企業については銀行振り込みも対象とする。

④海外在住者の振込みに対しては、現在クレジット払いとしているが、今年、未払いや会誌が送られなかったというようなトラブルがあったが、会費徴収は海外ではコンタクトがいろいろ難しいことも場合によってはあるので、検討事項として、数年間まとめ払いの場合は、ディスカウントを検討してみることも、コストパフォーマンスを考えて検討したい。

会費の数年間まとめ払いは、海外在住者のみを対象とするのか。あくまでも海外在住者を対象としたいので、ご検討をいただきたい。

・会誌の海外送料は、どうなっているのか。送料はかかるが学会負担である。

・海外在住者は、日本から仕事で赴任され2年・3年で帰国される方がいる。

・これについては、少し情報を集めて検討すると言うことでよろしいか。

・まとめ払いは海外移住者に限らず学生会員についても検討してはどうか。

・学生会員の場合は、2年間分前払いも検討材料である。

—継続審議—

⑤事務局の移行について、

PACからアドスリーへの新事務局の移行は、10月中が移行期間という扱いで、10月中に移行が形の上では完了したとい。

ただ、会計処理は11月5日の処理が出されているが、作業上は一応10月いっぱいまで終了。

11月1日から完全移行の扱いで考えている。

今後、契約書を取り交すことになるが、事務局契約に関しては10月1日の作業が発生した時期から、新事務局と契約したことで処理させていただきたい。

・PACへの事務局の契約は9月末で終了となり、事務局費も9月末で終了となる。

・今後、事務的に今までに解らない事があれば、PAC担当者藤原氏に問合せ確認することになる。

・移行に当たって業務打合せとして、10月11日に財務担当の坂本理事にお願いして打合せをした。

⑥今後の方針と検討事項

来期までの対応でいろんな引継ぎと、事務局が変わったことで、些細な事でも相談しておかないと解らない点があるので引継ぎを、主に事務的、会計的な点について、総務と財務の新・旧の理事が12月に集まり相談させていただきたい。また必用に応じて情報担当の森武理事にもお願いする必要が出てくる。

・会誌の編集出版については、先程編集のところで話が出ましたので省略する。

⑦日本液晶学会講演会の位置付

今年講演会・討論会といっていた秋の講演会の方を、フォーラムの方で担当する、フォーラム合同講演会のような、位地付に変わったというように認識している。もともとその講演会が応用をメインにして、討論会の方がどちらかと言うと基礎形が強いということで、応用系の講演会を持っていくという趣旨があったが、今後フォーラムの方で運営して、そうした趣旨と別にやっていくことであれば、講演会 の位置づけを考えたい。

・フォーラム運営と言う位置付を将来考えてもいい。

これは提案で、講演会と討論会を完全にセパレートして運営していくことも可能ではないか。

⑧その他

運営委員会の設置と役割

- ・討論会の運営委員会というようなことになるが、討論会に関しての前任の運営委員が参加し、新事務局と来期理事会の間の助言をする必要がある。
 - ・討論会の運営委員会については討論会を中心に運営する方針で、前理事と新理事で進めたい。
- 書籍の在庫管理は、現状アドスリーの在庫スペースもあまり多くないので、過去の会誌等のストックをどうするのか保管量を考えていく必要がある。最終的には発行された書籍を永久保存として残して、廃棄処分を考えなければならない。冊数の検討は予講集や寄贈された本などもあり使用しないものは時期を見て廃棄処分を検討しなければならない。2年を経過して必要なもの以外は処分するなどの残部ルール等検討する必要である。
- 寄贈図書についても廃棄を検討する。
- ・フォーラムの討論会の予稿集についても同様である
 - ・実際には、在庫の書籍は3年目以降そんなに出ない状況である。ただたまに全部欲しいという事もあり、今年は3件ほどある。
 - ・講演予稿集などは、今年から20冊程度返却し残りを処分している。
 - ・在庫については、永久保存、在庫保存、在庫保存維持費との兼ね合いでアドスリーと財務・総務で相談させていただきたい。

⑨事務局への委託業務の検討

- ・学会HPの管理を委託

現在、情報委員会で行っている一部の作業を新事務局へ移行するかどうかを今後検討する。

学会事務経費の減額が見込まれることから、現行の予算枠を超えない範囲で委託を考えることは、情報担当委員の負担軽減につながり必要なことと考えられる。

- ・現行のPACに年間支払以内に経費が納まれば検討しても良いのではないか。

以上が総務からの報告とご審議いただきたい項目です。

- ・討論会の会計等も検討のする事もコスト的に合えば新事務局に依頼を検討したい。

事務局の委託業務の内容に付いて必要であれば、見積り等をお願いしてお願いするかどうか検討していかねばならないと思うがホームページの管理を事務局に委託する点について、情報委員会としては、如何でしょうか。

- ・内容的に委託する内容とそうでないものがあるので、どこまで委託するかという所がある、業務内容によって委託できる部分とできないものもありランクがいくつかあるので、現在情報委員会の予算は、サーバー借りているだけの予算しか載っていないので、いずれ情報委員会として、お金がかかると思う。簡単に出来るところはお願いできれば有難い。
- ・それであれば内容を検討されて見積もりを依頼して欲しい。
- ・全面的に依頼しても良いか。
- ・予算的には前事務局費の予算の範囲内であれば可能であるので何を委託するか検討して見積りを依頼していただき、予算の範囲内であればかまわない。了解いたしました。

—承認—

・最後に、先程言いました講演会の位置付を今迄通りでかまわないということであればいいと思うが、フォーラムが企画だけという形なのか、今後運営を変えるのか、というのは、講演会・討論会との位置付でやられてきた講演会の位置付ですね、だから昔と変わって今年はどうするかと言うと基礎系的の要素が強かった。

・講演会の仕切りに付いては、何人かの方に伺って、その中でたとえば、昔、講演会はおっしゃる応用的なことで、人寄せで始めているが、今の液晶業界の状況を見ると、別にそんな事をやったからが集まるわけでないし、場合によっては討論会と分けた時期にやってもいいのではないかと。

・合同フォーラムという形、フォーラムが集まって企画していくのであれば、別にこれと一緒にやってもやらないで運営してもよく、そういう意味では、講演会をフォーラムの管轄という形にすればある程度融通がきくと思う。

あくまでも講演会・討論会といういっしょくたであれば何をやってもそこでということになるので、一緒に初めやっていて、そのうち分かれて違う形という企画も出来るかと思うのでその辺の位置付をはっきりさせておいたほうが、フォーラムの合同講演会であるのなら、お金の管理までフォーラムと言う位置づけもある。

・その辺を来年度できるかどうか解らないが、それは検討事項としておいたほうが良い。そうしないと主旨が何をやるのかフォーラムの委員にもわからなくなる。

取合えず何か講演すると言うだけになってしまうのは良くない。そう有意味では、現状にしても講演会こう言う引継ぎが無く、講演会は現地が頭を絞って知り合いをかき集めるスタイルになっている。

いづれにしても他にいい運営の仕方があれば、そういう選択の状況を広げると言う意味では位置付をはっきりさせた方がよい。分けた方がいいのか一緒にいいということではない。

・学会討論会で、受賞講演会がなくなったのはいつからか。今年からです。

・最初には受賞者を対象としてではなく、ある時期から行うようになったが決まっているわけではない。

(氏家総務理事)一応用意されたものは以上ですが、他に何かありますか。

・サマースクールの企業参加について意見集約して液晶学会の特徴を出して、他とバッティングしない企画を考えたい。募集に仕方やどうやって人を集めるかを考えていきます。先程のお話で、サマースクール方針を決めるワーキングのようなものを立ち上げて、次回の理事会に報告したいのでご協力をお願いいたします。

他に、ご意見はありませんか。それではこれで今年最後の理事会を終了いたします。

謝辞

(赤羽正志会長)今年事務局の変更とか、学会創立 10 周年ということでいろいろ重要な事があったのですが、氏家総務理事を先頭として、各理事のご努力により、うまく乗り切る事ができ、感謝いたします。

後、数年前からの、懸案としてある企業からの学会参加をどうやって促進させるかということも次期内田会長・近藤副会長の方でいろいろ着々と案を練ってくださっているので、その問題について来期に期待をしたいと思います。一年間どうも有難うございました。

(氏家誠司総務理事)一年間総務担当理事でやらしていただきましたが、いたらない事がいっぱいあり皆様のご協力で何とか最後まで乗り切る事が出来ました。また 12 月までの任期中は事務局との対応は最後までやりたいと思います。その後は、守屋新総務理事にバトンタッチいたしたいと思います。

1 年間有難うございました。